

平成27年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 平成28年1月21日（木） 15：15～16：50

場 所 事務局第1会議室

出席者 山口学長、佐藤理事、齊藤理事、小見理事、吉澤理事
内海委員、佐々木委員、土肥委員、中井委員、福田委員

欠席者 小川委員、塩川委員

陪席者 佐藤監事、尾崎監事、中林副学長、伊藤副学長、川又副学長、
市橋人文社会科学研究科長、高木教養学部長、薄井経済学部長、細渕教育学部長、
坂井理工学研究科長、鈴木理学部長、重原工学部長

○ 前回議事要録の確認

平成27年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、了承された。

○ 経営協議会委員からの意見への対応状況について

佐藤総務課長から、資料2に基づき、経営協議会委員からの意見への対応状況について説明があった。

○ 報告事項

1 埼玉大学における教養教育の在り方（たたき台）について

齊藤理事から、資料3に基づき、埼玉大学における教養教育の在り方（たたき台）について報告があった。

※報告における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆専門を補完するものとして教養教育を位置付けるというのは、専門教育と異なる領域を基盤科目としたり、あるいは他学部の学生の受講を前提としている。その結果、教養科目は他学部学生に提供する基盤的な科目群として履修する形になっている。自学部の学生の専門基礎部分も含めて教養教育は必要であると思うが、基本的な考え方としてどう整理しているのか。

次に、テーマ科目群「社会と出会う」の科目として新たに開設することは重要であり、「インターンシップ科目」「地域志向科目」については、現代社会が抱える様々な課題の解決に向けて、連携して取り組むことが必要である。その際、ひとつの学問分野での解決は無理があり、全体像を理解してもらうには、学際的な視点や文理融合的なカリキュラムが必要になってくる。テーマと学際的、文理融合的な対応を教養教育の中に取り組んで欲しい。

次に、汎用的な能力や情報リテラシーも教養教育のひとつの柱として考える必要がある。また、教養教育を継続的に学ぶことは非常に大事だが、総単位数はどの程度念頭においているのか。

△専門を補完するということは、いただいた意見を踏まえて引き続き議論を行っていききたい。また、テーマ科目群の「インターンシップ科目」「地域志向科目」については、これから強化していくところであり、「社会に出会う」はより一層充実させていく。次に、単位数は現行の18単位程度で考えている。その中で、汎用的な能力や情報リテラシーについて検討していく。

△テーマ教育プログラムの中で、現代社会の抱える課題をテーマとして設定し、文理

融合のチームで学際的な問題の解決を図り、多様性のある学生を協働させて、仕事の進め方や文理的な発想を身に付けさせたいと考えている。

総単位数については、現行は18単位だが、教養教育の位置付けを審議するうえで変わる数値だと考えており、どう整理するかは今後の課題である。

2 平成28年度予算の内示について

小見理事から、資料4に基づき、平成28年度予算の内示、運営費交付金予算案の概要等について報告があった。

次いで、山口学長より、総額で163,838千円増額したように見えるが、補助金が運営費交付金に含まれていること。また、平成27年度までは、全体の運営費交付金に対し効率化係数及び大学改革促進係数と称して1%の減額であったが、平成28年度は機能強化促進係数と称して、教育研究等基幹経費から0.8%の減額であること。そして、平成29年度以降の配分方法は不透明であるため、対応策を検討していく旨の補足説明があった。

○ 審議事項

1 第3期中期目標原案・中期計画案について

山口学長から、資料5に基づき、第3期中期目標原案・中期計画案について説明があった後、審議の結果、了承された。

※審議における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆先般、各大学の地域貢献度が発表された中で、埼玉大学の点数が低かったことについてどう思うか。

△例を挙げると、日経BP社の学生の保護者を対象にした関東圏の地域貢献度では、埼玉大学が1番である。これは、調査内容や聞く対象者によって評価が分かれるためだと思う。本計画では、埼玉県内の企業や公的機関と一緒にあって地域を活性化すべく人材を輩出する仕掛けになっている。

☆男女共同参画の推進に関する目標の計画では、女性教員の採用比率の数値目標があって分かりやすくして良い。しかし、人材の育成及び確保に関する目標の計画では、女性の管理職の登用に関する数値目標がないので、具体的な指標があったほうがよいのではないか。

△女性の管理職の登用については、昨年から1名増やしている。しかし、対象者が少ないことから、現状では数値目標は掲げにくい状況である。それに対して、女性教員の採用比率については、国大協の設定している数値目標を意識して作成している。

☆概要の説明資料の中では、教養教育についての記述が無いように思えるが、教育に関する目標・計画の中の「文理融合」で読み取るのか。

△教養教育と文理融合は違うものと考えている。現代的課題の解決を文理融合型によって解決していくものだと思っているが、その元となる知識が「文」であり「理」であり、多様な学問を学ぶことが教養部分であると考えている。教養教育の重要性は承知しているが、ここで明記するまでには至っていない状況である。

2 国立大学法人埼玉大学教職員年俸制給与規則等の改正等について

小見理事から、資料6に基づき、国立大学法人埼玉大学教職員年俸制給与規則等の改正等について説明があった後、審議の結果、了承された。

3 国立大学法人埼玉大学会計規則の一部改正について

小見理事から、資料7に基づき、国立大学法人埼玉大学会計規則の一部改正について説明があった後、学外委員から第10条第1項について指摘があり、修正した資料を差し替えたうえでの審議の結果、了承された。

※審議における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆第10条第1項は、予算編成方針を作成してから教育研究評議会の意見を徴するのではなく、教育研究評議会の意見を徴してから予算編成方針を作成するのではないか。

△ご指摘のとおりである。この後、修正した資料を配付するのでご審議願いたい。

4 平成28年度予算編成方針（案）について

小見理事から、資料8に基づき、平成28年度予算編成方針（案）について説明があった後、審議の結果、了承された。

※審議における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆学長裁量経費と機能強化経費があるが、今後の大学の教育研究に重要な経費になる。透明性、合理性を確保する編成方法をどのように考えているのか。

△学長裁量経費については、全学予算委員会で議論するので透明性は担保できると考えている。機能強化経費については、事項を正確に整理したうえで予算を組み上げていく方法をイメージしている。

☆教員の定員管理はどのように行っているのか。全学的に管理をしないと、全学予算委員会の実効性がないと思う。

△現時点で定員管理の方法を変更する予定はない。中期目標・計画の中で、学内資源を再配分して機能強化をしていくので、その部分で人件費をコントロールしていく考えである。

○ その他

1 埼玉大学の最新の動向について

山口学長から、資料8に基づき、埼玉大学の最新の動向について説明があった。

2 次回日程（平成28年3月29日（火））

山口学長から、開催時間については、改めて各委員の都合を調整したい旨の連絡があった。また、小見理事から、人事院勧告に伴う給与規則の改正の必要が生じた場合は、2月下旬に書面審議を開催する旨の説明があった。

以上